

2024年7月12日

各位

会社名 株式会社ビザスク

代表者名 代表取締役 CEO 端羽 英子

(コード: 4490、東証グロース)

問合せ先 執行役員 CFO 小風 守

(TEL. 050-3733-8513)

業績予想に関するお知らせ

2024年4月12日に公表した業績予想について内容の変更(情報の拡充)を行いましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想

2025年2月期(通期)の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

	取扱高 (注)1	営業収益	調整後 EBITDA (注)2	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期 純利益
前回発表予想(A)	百万円 14,417	百万円 9,724	百万円 435	百万円 未定	百万円 未定	百万円 未定	円銭 未定
今回発表予想(B)	14,417	9,724	435	600	550	50-100	5.4-10.8
増減額(B-A)	-	-	-	-	-	-	-
増減率	-	-	-	-	-	-	-
(参考)前期実績 (累計)	13,106	8,967	1,040	△59	112	△12,635	△1,404.57

(注)1. 「取扱高」とは、知見プラットフォーム事業において顧客から得た対価(値引控除後)の数値であり、アドバイザーへの謝礼を含みます。

(注)2. 「調整後 EBITDA」とは、営業利益+減価償却費+株式報酬費用-Coleman社ソフトウェア開発費に関する減損損失で計算される金額です。

2. 業績予想の変更内容

当社は、2024年4月12日に公表した決算短信において2025年2月期の通期連結業績予想を公表いたしました。

今般、本開示日時点における業績の状況を踏まえて、2025年2月期の通期連結業績予想のうち、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益を追加的に公表いたします。当社グループの事業環境及び業績の見通しを踏まえて、当期純利益まで開示することが投資判断上の有用な情報開示につながるものと判断し、新たに開示することといたしました。また、税金等の見積りに一定の幅があることから、親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想の金額を50百万円から100百万円としております。なお、今回公表する業績予想の金額には、本日公表した「営業外収益並びに営業外費用の計上及び特別損失の計上に関するお知らせ」における営業外損益と減損損失をすでに織り込んでおります。これらの業績予想の金額は、当第1四半期において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、当社は業績予想において、従来より、調整後EBITDAを開示しており、今回の業績予想においても調整後EBITDAを採用しております。一般的に、調整後EBITDAは営業利益に非現金支出である減価償却費や株式報酬費用を足すことによって計算されるものであり、2024年4月に当社が公表した調整後EBITDAの業績予想の計算においてもこれと同様に計算しておりました。この計算を行った際、Coleman Research Group, Inc.で生じるソフトウェア開発コストの全額を営業費用で費用処理する想定で計算を行いました。

その後、当社の当第1四半期連結決算において監査法人と協議を行った結果、Coleman Research Group, Inc.において生じる当期のソフトウェア開発コストのうち、資本的支出と評価される金額を資産計上したのちに、Coleman社の収益性等を勘案して当該資産計上額をその期間における減損損失として費用処理し、連結決算上もこれをそのまま取り込む必要があることが明らかとなりました。これは、先述した一般的な計算方法で調整後EBITDAを計算すると、ソフトウェア開発コストのうち減損損失とされる金額の分だけ調整後EBITDAが引き上がってしまうことを意味しておりますが、投資上有用な情報を開示する観点から、当該減損損失を調整後EBITDAの計算に入れるべきかどうかについて改めて検討いたしました。

当社としては、調整後EBITDAを本質的な事業創出力を表す指標として採用して継続的に開示していること、また、ソフトウェア開発コストに関する減損損失は、継続的に行われているソフトウェア開発から生じていることから、当該減損損失を調整後EBITDAの費用項目として扱うこととしました。

その結果、調整後EBITDAの業績予想の金額は当初想定を維持することといたしました。

以上